

会 議 名	第六回足立区ギャラクシティ運営評価委員会		
開催年月日	平成 26 年 7 月 14 日 ( 月 )		
開催場所	こども未来創造館 2 階 わーくしょっぷスタジオ		
開催時間	13 時 30 分開会 ~ 14 時 30 分閉会		
出欠状況	委員現在数	9 名	
	出席委員数	9 名	
出席者(敬称略)	出席	委員長	平澤 茂 (文教大学名誉教授)
		委員	吉井 謙 (東京大学教授)
	欠席	委員	山田 心 (認定 NPO 法人 日本グッド・トイ委員会法人運営部長・東京おもちゃ美術館員)
		委員	伊東 正示 (東京理科大学非常勤講師 株式会社シアターワークショップ代表取締役)
		委員	鈴木 春男 (足立区少年団体連合協議会副会長)
		委員	青木 信夫 (前足立区小学校 P T A 連合会会長)
		委員	稲塚 由美子 (ミステリー評論家・翻訳家・現在足立区民生児童委員)
		委員	染谷 江里 (一般公募)
		委員	坂田 卓也 (一般公募)
事務局	子ども家庭部青少年課	課長	寺島 光大
	青少年課ギャラクシティ支援担当	係長	鈴木 史敏
	青少年課ギャラクシティ支援担当		上野 兼司
	青少年課ギャラクシティ支援担当		照屋 良太
	青少年課青少年教育担当	係長	村上 長彦
	地域のちから推進部地域文化課	課長	松野 美幸
	地域文化課文化団体支援係	係長	古川 裕子
	地域文化課文化団体支援係		脇本 祥子

<p>会 議 次 第</p>	<p>1. 開会  2. 委員長挨拶  3. 前回の議事録  4. 事務局からの資料説明  5. 意見交換</p>
<p>配布資料</p>	<p>資料1 次第  資料2 第五回足立区ギャラクシティ運営評価委員会議事録（案）  資料3 足立区ギャラクシティ運営評価委員会評価書  （委員平均得点、主な委員所見を記載）  資料4 評価項目ごとの採点一覧  資料5 委員ごとの足立区ギャラクシティ運営評価委員会評価書  資料6 足立区ギャラクシティ運営評価採点票 委員所見まとめ</p>

<p>寺島課長</p>	<p>&lt; 1 . 開会 &gt;</p> <p>ただ今より、第六回ギャラクシティ運営評価委員会を始めさせていただきたい。</p> <p>(傍聴人入場)</p>
<p>平澤委員長</p>	<p>&lt; 2 . 委員長挨拶 &gt;</p> <p>今年度、最後の評価委員会である。委員の皆様には評価を付けていただき、事務局で結果をまとめていただいた。それでは、まとめていただいた資料について、事務局より説明をいただきたい。</p>
<p>鈴木係長</p>	<p>&lt; 3 . 前回の議事録 &gt;、 &lt; 4 . 事務局からの資料確認 &gt;</p> <p>それでは、席上の資料を確認する。なお、資料2の議事録については、修正箇所があれば、事務局まで7月中にご連絡をいただきたい。その後情報公開する。</p> <p>(各自資料を確認)</p>
<p>平澤委員長</p>	<p>これまで五回の評価委員会の中で色々と話しを伺い、指定管理者によるヒアリングも行ってきた。委員の皆様から個別の評価をいただき、事務局にまとめていただいた。すべてを総合し、B-という評価になった。Bという評価は適正であるが、マイナスが付いているので、適正の中ではもう少し努力が必要ということである。この評定の仕方について、ご意見があればお願いしたい。また、評定の数値についてもご指摘があればお願いしたい。</p> <p>(各自評定値について確認)</p> <p>ご意見がないようなので、評定値について、お認めいただいたということをお願いしたい。また、個別にいただいたご意見について、事務局で資料にまとめていただいた。このご意見について、委員の皆様の方で、追加してほしいなどの希望があればお願いしたい。</p> <p>(各自意見について確認)</p> <p>こちらについても、ご意見がないようなので、お認めいただいたということをお願いしたい。それでは、次年度等に向けて、これまで評価委員会をやってきた感想をいただきたい。</p>
<p>染谷委員</p>	<p>&lt; 5 . 意見交換 &gt;</p> <p>評価については、責任を持って評価しなければいけないという思いから、時間がかかってしまった。また、利用者の立場として意見を書かせてもらい、評価結果については、想定していたものに近かった印象である。ギャラクシティが、将来足立区で育つ子どもたちのためになってほしいという思いを込めて評価させていただいた。期待するところが大きい分、次年度もさらに工夫をしてもらいたいと感じた。特に、大学や企業と協力し、充実したプログラムを開催してほしい。</p>

坂田委員	<p>評価にあたっては、利用者の立場として意見を書かせていただいた。今回の評価委員会は、子ども施設における評価委員会としては初めての試みだと聞き、こういった試みは評価されるべきだと思った。実際の評価にあたっては悩み、ギャラクシティに足を運んだ時は、評価する視点で見たりもした。評定の中で、比較的ばらつきの多かった分野があり、例えばまるちたいけんドームなどのばらつきの多い事業については、まだまだ改善の余地があるのではないかと感じた。人それぞれ捉え方が違うところがあるので、ばらつきの多かった事業として注目していくのは大事であると思う。ギャラクシティが、足立区を代表とするような施設となしてほしい。</p>
山田委員	<p>評価の期待される中での開館となり、開館直後から多くの来館者がある中での運営は大変だったのではないと思う。一年目から三年目ぐらいまでは、バタバタする中での運営ではないかと思う。最初の評価として、B-という評価が付いたが、これからどんどん改善されていくであろうと思う反面、その分区側の要望ももっと高いことを要求してもいいのではないかと思う。区全体で運営していく形であったり、区外からの集客に力を入れられるように、区と指定管理者がうまく連携していくことができればいいと思う。</p>
平澤委員長	<p>評定を付けるにあたっては、非常に悩んだ。今までの評価委員会の中でわかってきたことを、なるべく客観的に捉えた。評定値については、概ね妥当なところでまとまった印象である。次年度に向けては、評価委員会の中でどこが良くて、どこが課題であるかを共有していきたいと思う。良いところがどう伸びたのか、課題がどう改善されたのか、次年度の評価委員会では、さらに精度の高いものになると思う。また、評価とは直結しないが、区と指定管理者の連携の在り方の中で、例えば館内の掲示物の仕方等に、工夫と改善の余地があるのを感じた。今後は、評価委員の皆様などの力も借りて、時には改善していく方法もあるのではないかと思う。</p>
吉井委員	<p>指定管理者の5年間の契約期間の中で、最初の年に評価を実施するというのは、通常ありえない。契約期間の中間と契約終了後の二回、場合によっては契約最終年にもう一回を追加して計三回というのが普通である。最初の年は、オープン直後の混乱のため、管理者の到達点が区側の高い要求を満たさないことは容易に想定でき、そこを機械的に捕らえると、評価は当然ながら厳しくなる。しかし、一年間を通じて会合を重ねていく中で、この委員会は単に区側の要求の達成度を評価することが求められているだけではなく、ギャラクシティをどう発展させていくかという観点からの協力も求められているのだと考えを切り替えた。それは、ギャラクシティの本来の目的である子どもたちの創造性を育てるために区側の要求が適切かどうか評価の対象になるということである。一般的でない初年度からの評価会立上げは、今後の科学館運営について広範な意見交換ができる貴重な機会となったことは間違いなく、この経験は区側にとってひとつの財産になったと信じる。科学館運営や維持管理に関して、他施設から質問やアドバイスを求められたとき、ここでの一年間の議論が大いに役立つのではないだろうか。今年の経験を踏まえて、次年度からは、区側から指定管理者の取り組みの足りないところや課題を客観性のある形で提示してもらい、それを委員会が評価するという本来の評価委員会の姿に戻ることを期待したい。</p>

伊東委員	<p>今日の採点を拝見し、自分の採点と比較してみると、それほど差がなくて安心した。一番高い点数を入れた委員が726点、一番低い点数を入れた委員が510点であり、±100点ぐらいの幅である。また、一つ一つの項目を見ていくと、全員が同じ点数を入れた項目は一つもなかった。採点をするにあたっては、最初の方が辛口になっていて、だんだんと甘くなった印象である。私自身は施設のユーザーではなく、客観的にデータから読み取っていく立場であったが、区の所見を読むと厳しい評価だという印象を受けた。ここでの評価というのは、誰を評価しているのかと思えば、指定管理者を評価しているのはもちろん、評価している我々委員も、どう評価したのかを評価されている。同時に区に対する評価も大きいと思う。特に初年度は、要求水準書があり、それに従ってやっていけば本来はいいはずである。しかし、実際には想定以上の来館者があったために、当初予定していたことができなかったという項目があるが、それを評価を下げる理由にするのは厳しいかなと思う。もう一つは立場の違いが大きく、指定管理者は民間企業であるため、地元の団体や学校に対して、一緒に事業をやろうと提案しても、相手方が受けてくれるとは限らない場合がある。その点については大きなハードルがあると感じた。それは改善しなければいけない大きな問題であって、どうやったら解決できるかといえ、区が協力するしかない。区は今回厳しい見方をし、指摘をしているが、評価をされているのは区自身でもあり、指定管理者がうまくいかない責任の一端を担っている。今後、さらに協働しながらやっていく必要を感じた。また、初年度の赤字について、大きな赤字を抱えていることに対して、評価項目になかったため反映はしていないが、大きな問題ではないかと感じている。もうひとつは、館長の交代に関して、指定管理を受けた時の館長が交代し、さらに前館長も交代している。組織の問題というのは、誰が働いているのかと同時に、やはりトップが誰であってどういう管理体制をとるかということが、重要な問題である。様々な事情があり仕方がない面はあるにしても、それは評価の中では、ポイントを落とす要因であると思う。最後に、前年度の評価が今回出されたが、既に今年度の予算が決まっているため、反映できるのは来年度になってしまう。すぐに予算の手当てをして改善しなければ、五年間の指定管理期間の中で実現することは難しい。もっとストレートに評価委員会の意見が指定管理者に伝わるようになると良い。評価委員会の場に、指定管理者にも出席していただき、直接言葉を聞いてもらったり、場合によってはそこで議論をしても良いと思う。一年終わった時点の評価だけになると、反映できるのがあまりにも先になるので、評価委員会のシステムについても考えていただきたい。</p>
鈴木委員	<p>私自身、この評価については、ショックを受けている。特にまるちたいけんドームは、ギャラクシティの本質をなす場所であると思う。まるちたいけんドームを中心に本来動くべきものであると思うが、結果的にC-である。理由としては、稼働人員が少ないのが評価されてしまったと思うが、内容としては素晴らしいものを維持していると思う。まるちたいけんドームの評価がC-であるがゆえに、総合評価がB-になってしまっているため、この評価が立ち直ってもらえれば、B+以上の評価になるのではないかと思う。まるちたいけんドームの活用が課題であるとなっているが、至急改善が必要であるというような感覚で取り組んでいただきたい。ただし至急改善が必要というのは、ハード面の改善ではなく、PRの方法であったり、料金体系を工夫するなどして利用率を高めていただきたい。なぜかといえば、ギャラクシティに与えられていることは、二つあると思う。一つは学ぶこと、一つは遊ぶことであり、遊ぶことに関しては大成功であると思うが、学ぶことに関しては人気がなかった印象</p>

<p>青木委員</p>	<p>である。作り手の考えていることと、使い手の考えていることに違いがあると感じた。来館者は、学習的な要素よりも、遊ぶことの方を要求していることが、この一年目の数字で明らかになったと思う。足立区の本来のコンセプトとしては、学ぶことと遊ぶことが半々であり、学習的な要素も大事にしていかなければならないので、今後はさらにまるちたいけんドームを活用したイベントを企画していくことを期待したい。</p> <p>一年間を通して貴重な体験をさせていただいたことができた。足立区の大勢の子どもたちがギャラクシティを利用し、また足立区外からの利用もあり、様々な場面でギャラクシティについての意見を聞いてきた。評価委員会の中で感じたのは、リニューアルの前段階のところから、さらに計画性をもってやるべきところが多くあったのではないかと感じている。また、ギャラクシティが運営していく中で、評価委員会の意見をどう反映させていくかを、検討していく一年であったように思う。総合評価でB-と出ているが、区との連携や様々な意見を指定管理者にどう伝えていくかに、大きな課題が残されていると思う。また、評価にあたっては数値が付きものだが、例えば利用者のサービスアップにつながる管理体制などは、マニュアルやカリキュラムだけでは補いきれないものがあると思う。人材を育成していく上では、個性を活かしたサービスなどが多くあると思う。ギャラクシティを運営していく中で、スタッフサービスの向上が非常に重要であると感じている。今後、サービスの質をどうやって向上させていくかは、区と指定管理者が連携して取り組んでいく課題であり、改善していかなければならないと思う。</p>
<p>稲塚委員</p>	<p>今回の評価にあたっては、ギャラクシティが今後さらに良くなってもらいたいという思いから、厳しく評価させていただいた。ギャラクシティが愛すべきふるさとの施設として、長く続く施設であってほしいと思っている。また、意見にあたっては、ギャラクシティに望むことを書かせていただいた。評価については、+を付けたことが良かったと思っている。四段階で区切るのでなく、+を付けることで、同じB評価でも-が付くことでCに近いことがわかるので、とても大事だと思っている。新しい施設が出来た時のスタッフの対応については、最初から対応があまり良くないと印象を持たれてしまうのは、ギャラクシティにとって一番大きなマイナスだと思う。スタッフが積極的に声かけをして、困っている人に手を差し延べたり、当日のイベントを紹介するなど、臨機応変な対応が出来るようになってほしい。特に、ハード面よりもソフト面の方が大事なのではないかと思う。アンケート結果についても、統計を取るのも良いが、少数意見にも耳を傾けて、貴重な意見として先に取り上げてほしい。スタッフは、来館者も含めて、ギャラクシティの仲間だという意識を持って運営してほしい。</p>
<p>平澤委員長</p>	<p>皆様から貴重なご意見をいただくことができた。委員会当初は多少手探りなところがあったが、皆様の協力を得て運営していくことが出来た。次年度に向けては、さらに精度を上げて評価委員会が進んでいくのではないかと思う。それでは、これにて本年度の評価委員会を終了としたい。</p>